

【主な記事】
・劔岳に錫杖を残した人物とは？
・アメリカ実験小説の最高到達点！
・フリーダム 生き方のススメ
・実に身近な 古関メロディー

劔岳に錫杖を残した人物とは？

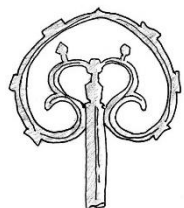
登山経験者の両親に連れられて、立山・室堂から二度劔岳に登ったことがある。直立の崖を、小さな足場と、鎖を頼りに渡っていくのは、怖いもの知らずの小学生にはアスレチックのような楽しさがあつたが、恐怖心を知った大学時代では命からがら帰ってきた感じだった。夏山でもけが人続出なのが納得の険しさだ。

劔岳はそんな険峻な山な上、立山信仰では針山地獄として扱われ立ち入りが禁じられていたため、明治時代まで未踏峰と思われていた。しかし、明治末期に帝国陸軍の測量隊が初登頂と三角点設置のため登頂したところ、山頂で平安時代の錫杖と鉄剣を発見した、というのは新田次郎著『劔岳・点の記』

でも有名な話。発見された錫杖は現在立山博物館で展示されているが、その平安時代に錫杖と鉄剣を残した人物を探るのが、本書『劔岳線の記』である。現代では登山道にルート表示があり鎖もハシゴも整備されているけれど、そんな登山道もない・崖を登るような道具もなさそうな平安時代にいつ・誰が・何のために・どのルートで登った

のか？著者は冒険家なので、歴史研究家とは違う大胆なアプローチで、文献・古地図にあたり、山岳関係者に会いに行き、実際に歩いて確かめる、を繰り返す。そうして見えてきたのは、早月川を中心とした劔岳信仰の姿だ。劔岳のふもと、上市町には山岳信仰を始まりとする大岩山日石寺や眼目山立山寺という古刹があり、黒川に大規模な仏教遺跡がある。いずれも中世には隆盛を極めていたと言うが、早月川へ抜けて劔岳に至る参詣道がはじめて腑に落ちた。教科書で習う中世史はどうしても朝廷とその周辺だけになってしまいが、地域それぞれに土着の歴史があり、それが荘園や宗派のネットワークで全国とつながっていたということとを改めて感じさせられた。

本書を読むときは、劔岳の山岳地図と劔岳から早月川河口まで一覧できる地図を横に置くことをお勧めする。著者がどのように謎に迫ったのか、追体験をより楽しめるだろう。



コロナ危機こそチャンス？

ビジネス書界隈の流行にのって、「教養としての」の投資版がダイヤモンド社から刊行されました。『ビジネスエリートになるための教養としての投資』では、漠然とした投資というよりは、明確に株式投資を勧めています。

ビジネスエリートになるため、なのでしようが、かなり手厳しい生き方指南が続く、読んで

いるとムチで打たれているかのようです。『仕事に効く教養としての「世界史」』の出口先生は優しかった。しかし、人生の先輩であり、実績充分な人の正しいお話なので受け入れる他ありません。

会社」として、実際に投資実績のある数社を例に上げています。ただし、日本の会社は一社だけ。それ以外は、海外の会社です。長期低迷している日本市場は、例え身近であっても魅力に乏しいということ。本書はそれを明白に教えてくれています。

投資本の新刊はかなり久々に読んでみたのですが、一般の日本人にとっても投資はそこまでグローバルなことを求められるのかと考えさせられます。

マーキング癖

人類は本を読む者と読まない者に分かれる。読む者はさらに本に書き込みをする者としていない者に。私は書き込みをする側だ。一度読んだ本は処分するので、書き込みをする本は、捨てないで決めた選ばれし本だ。そんな本は読んだ記録をつける。赤ペンで書き込みを行った。線を引きいたりする。残す本なので再読があつたりするの

だが、二回目は青になる。再々読であれば緑になる。同じ箇所

たり、線を引きすぎたりすると、何がなんだか分からない。どこが重要な箇所か不明瞭になる。とはいえ、自分にとって重要な本であればあるほど、マーキングしたくなるのだ。

立ち寄った書店で本を購入することはよくある。けれども、そばにペンがないと読み始めることができない。そんな習性の人たちもまま存在するのであった。

祝！芥川賞受賞

七月の第一六三回芥川賞を受賞した『首里の馬』著者は富山市出身の高山羽根子さんです。おめでとうございます！

『首里の馬』は不思議な話だ。舞台は那覇なんだねーと思つて読み始めると、主人公がライフワーク？で行っている資料館の作業といい、オンラインでクイズを出す仕事といい、迷い込む宮古馬といい現実感が

ない。ふわふわ漂っている感じがずつとする。なぜ現実感がな

いかという、自分の常識とは全然違うからなのだが、しかし、こつとも考える。自分が実体

験できる以外の世界は主人公の人生のようにぼやけた輪郭しか認識できないのではないかと。

主人公が守ろうとしている沖縄の過去の遺物は、現代では



高山羽根子 (敬)

見向きもされない状態。だが、主人公はいつかその資料を必要とする誰かがアクセスできるように奔走する。それを見てどう解釈し活用するかはその人次第だ。そもそも見つけれられないのかもしれない。

『首里の馬』は自分の認識を静かにグラグラ揺らす、そんな小説だ。

雨天のため営業中、心から会いたい人に会える不思議な茶房

『金沢あまやどり茶房』は、名所として有名なひがし茶屋街の片隅にあり、雨が降る日だけ現れ、年齢不詳の店主アマヤ(男性)と幼い双子の売り子がいる不思議なお店「あまやどり茶房」が舞台の物語です。

居場所が分からないが「会いたい人」がいる人、その中の選ばれた人が茶房に入れ「会いたい」という目的をかなえることが出来ます。主人公・晴哉と幼なじみ澤、田畑老人と

孫の佑真など離れ離れになつてしばらく会えなかった人たちがここで会い、喜びの時間を過ごします。それらの場面はこの本の読者もほつこりとした優しい気持ちにさせてくれます。

人との出会いは偶然のようで運命なのかもしれないと私自身は思います。そんな人と人との縁をつないでくれる不思議な空間として「あまやどり茶房」が存在します。実際、

ひがし茶屋街は石畳の道に町屋が立ち並び歴史を感じます。加賀藩の昔にタイムスリップしたかのような歴史ある街並みを散策するのは、楽しいものです。雨の多い金沢で傘をさしながら街を散策するのも風情ある街を楽しめると思います。リモート、テレワークと呼ばれる昨今でも、人々との出会い・縁は現実の世界でいまだ大切なものと私自身は考えます。歴史ある街並みの中に「あまやどり茶房」があればよいのにといいながらこの本を読み終えました。

(京)

なぜ小説を書くのか？

書くのか？

小説を書きながら、ビストロのバイトと元夫からのわずかな慰謝料で暮らす主人公、令央。新人賞への落選を繰り返して、四十歳を目前にして突然現れた編集者乙三に、「個人的な興味」から、応募作『砂上』の改稿を求められる。

辛辣な言葉で何度も書き直しを迫る乙三。容赦ないダメ出しに、こちらも一緒に傷つく。「書き手が傷つきもしない物語が読まれたためしはありません」「不思議な人じゃなく、人の不思議を書いてくださいませんか」

改めて、小説家という職種の人達の強靱な精神力に思いをはせる。壮絶なやりとりを経て生まれた母娘の物語『砂上』とは何なのか。この編集者は一体何者なのか。ミステリー要素もあつて一気に読ませるが、幾重にも重なる構造によつて深い余韻が残る。

編集者乙三の言葉「屈託とか葛藤とか、簡単な二字熟語でおさまらない話を読みたいんですよね」この作品はまさにそれで、共感や感情移入といった生易しいものとの決別を表明する著者の覚悟を感じて心が震えた。



桜木紫乃 (坂)

アメリカ実験小説の

最高到達点！

一昨年はウィリアム・ギャデス『J R』(国書刊行会)、昨年はリチャード・パワーズ『オーバー・ストーリー』(新潮社)と、大作を続けて翻訳されている大阪大学教授の木原善彦氏が今回手掛けたのは、長らく翻訳が待たれていたデイヴィッド・マークソンの代表作『ワイトゲンシュタインの愛人』です。

デイヴィッド・マークソン(一九二七―二〇一〇)は、アメリカの詩人・小説家で、若い頃は犯罪小説などの娯楽作品を書いていましたが、六十歳を過ぎてから発表された本作は「アメリカ実験小説の最高到達点」と形容されており、作家や批評家筋からも高く評価されている作品です。

終末世界で正気を失った女性が浜辺の家に暮らし、日々の出来事や思い出をタイプライターで綴りながら、そこに記された言葉と自分との関係の中にある絶対的本質をつかもうとする、という物語です。

まるでツイッターやラインのような短文で改行する文体が特徴的で、様々な哲学者や芸術家や作家にまつわる話題が知的な連想のように続いていく様は、不思議な読後感をもたらします。普通の小説にはもう飽きたという皆様には、是非読んで頂きたい作品です！

(岩)

フリーダ式 生き方のススメ

『わたしはフリーダ・カーロ』は、スペインのイラストレーター、マリ・ア・ヘッセがフリーダ・カーロの人生を描いたグラフィック・ノベル。フリーダ・カーロといえば、繋がった眉毛、鋭いまなざしを思い出す。彼女の作品だけではなく、キャラクターそのものに強烈に惹きつけられる人々が今なお世界中にいるのはなぜか。その背景にどんな人生があったのかを知るには本書は最適な一冊だ。

フリーダの人生の様々な困難に
関してはご存知の方も多いだろう。

科学はすべてを

解決する！

『マンガでわかる 今日からドヤれる科学リテラシー講座』は、ホラー・疑似科学・危険物といったものを科学的に解説し、非科学的な話に騙されないよう、リテラシーに必要な知識や考え方をマンガでわかりやすく身につけることができる一冊。

……と紹介すると普通に感じられるが、著者のくられ氏は、ちょっと変わった人物。本業は科学系のフリーライターですが、動画投稿グル

本書ではそういった事実に加えて彼女がそれをどう感じ、どう受け入れたかが語られる。時には嘘も交え、話に尾ひれをつけて語ったと言われるフリーダ。言葉のひとつひとつから「事実を曲げてでも自分を曲げない」という強い意志が伝わってくる。

一番の魅力であるイラストは、著者がフリーダの絵をアレンジしたもの。彼女にまつわる重く暗い事件をさらりと表現しており、読後は不思議と爽やかで前向きな気持ちになれる。

自分らしく生きるとはどういうことか、答えを見つけた人には本書を読むことをおすすめする。

(兼)

「〇〇の主役は我々だ」の実験動画で、狐のお面に白衣という姿で出演している。週刊ジャンプ連載マンガ『Dr. STONE』の科学監修者として日本テレビ「世界一受けたい授業」にも同じ格好で出演されたのを見たことある方も多いかも。また、前述の出演動画がコミカライズされており、現在四巻まで KADOKAWA から刊行中と、今時の人気の広がり方をしている。著書の内容は動画内で実験・検証したネタもあるが、何故か書籍の方では控えめな表現になっているものが多いので、興味がある方はぜひ動画の方もチェックして欲しい。ただ危険なものも多いため、用法・用量を正しく守って楽しんでいただきたい。

(崇)

あなたのことが、 もっと知りたい

映画「ドクター・ドリトル」など、動物と話すフィクションは数多い。動物と心を通わせる感動的な実話も人気のエピソードだ。しかし、生まれも育ちも遺伝子も違う別の生き物が、全く同じ思考で物事を考えているなどあり得るだろうか。そこに人間中心の擬人化が用いられることも多く、彼らの思考や知性を再現しているとは言い難い。

動物たちは人間が持ちえない能力を持ち、人間ができない方法で自己を表現する。『言葉を使う動物』で紹介される「動物の言葉」の数々は非常に興味深い。人の耳では聞こえない音、匂い、身振り、イカにいたっては変化させた体表の色でコミュニケーションをとるといふ。また、ただ叫んでいるようにしか聞こえない鳴き声も、詳しく調べると単語や動詞、はては構文を用いている場合もあるという。「動物の言葉」についての研究は、仕組みの上でも、そして知性や言語の哲学的な意味合いの上でも、まだまだ未解明な部分が多い。

意思疎通が図れない動物に対し、人間は残酷な態度をとることも多い。「動物の言葉」を研究することにより、彼らの知性・心への理解が深まること、彼らとの関係がよりよくなることを信じてやまない。

(五)

老犬まで

いとしい

かわいいう仕種や表情で人を日々和ませてくれるペットたち。イン스타그램で公開された efriman さんによるゴールデンレトリバーと日々を綴ったコミックエッセイ『ゴールデンレトリバーのエフとコメとの楽しい暮らし』は、「犬好きあるある」や癒しで溢れています。

二〇一七年に十三歳でエフが旅立ったことをきっかけに書き始められ、やんちゃな幼犬期から闘病が始まった老犬期まで、そして新たな家族、コメとの暮らしがつづられています。

犬を亡くした時の喪失感から、もう絶対に飼わないと決心される方もいます。ただ efriman さんはコメとの暮らしの中でエフの存在がさらに身近に、ときには傍でエフがコメへ指導している風を感じ、何よりの癒しになっているようです。

イン스타그램上では、コメの成長、エフとコメとの違いに気づく楽しい暮らしはまだ続きます。本書を読んだあと覗いてみてはいかがでしょうか。

(杉)



おいしい絵本の

新作

絵本にはおいしいような話がいっぱいある。『ぐりとぐら』のカステラや、『しろくまちゃん』のほっとけーき』のホットケーキがその代表作。読んでいる内に絵本に出てくる料理が食べたくなってくる。

「おいしそうなくま」シリーズでおなじみの柴田ケイコさんの新作『パンどろぼう』にもおいしいようなパンがいっぱいだ。

見かけを食パンに擬態して、パンを盗んで嬉しそうに食べるパンどろぼう。ある日「せかいいちおいしいもりのパンや」を発見して、盗みに入る事に……。

盗みは当然良くないが、パンどろぼうにもポリシーがあり、設定が細かい。自分で「いただくパンはひとつだけ」「いただくときはかんしゃをこめて」とおきてを作るところがパンへの愛を感じる。パンどろぼうの正体は？

おじさんのパンを食べた時のパンどろぼうの表情の変化は必見だ。……あんなにおいしいようなパンなのに……と思いが、今度の休みには焼きたてのおいしいパンを食べようと固く決意した。

(米)

実に身近な

古関メロディー

NHK連続テレビ小説「エール」は国民的作曲家・古関裕而と妻・金子がモデルとなっています。昭和という激動の時代、度重なる挫折を経験しながらも音楽を愛し、今なお歌い継がれる名曲を多数生み出した古関の人生に惹きつけられました。ドラマでは「音楽は人を励まし、勇気づけるもの」として「音楽の力」が大切に描かれています。ドラマの中で流れる古関メロディーは背中を押すような力強さが印象的です。

『あなたが選んだ古関メロディーベスト30』は出身地・福島の新聞社が中心にアンケートを行ったベストアルバム。耳にしたことがあるこの曲も古関作品だったのかと驚かされます。昭和生まれ以外の人も知っている曲がありますよ。

『あなたが選んだ古関メロディーベスト30』は出身地・福島の新聞社が中心にアンケートを行ったベストアルバム。耳にしたことがあるこの曲も古関作品だったのかと驚かされます。昭和生まれ以外の人も知っている曲がありますよ。

ド級の 吸引力

伊東歌詞太郎さんは、ネットを中心に活躍されているシンガーソングライター。『記憶の箱舟』というシングルCDを発売したが、その二曲目には「僕たちに似合う世界」という曲が収録されている。これは同じタイトルで発売された、彼の初エッセイ本のテーマ曲である。

エッセイ本には彼の生き方が書かれており、歌への愛がたくさん詰まっている。特に重要視しているのが、ヴォーカリストは言葉で聴き手に何かを伝えることができる存在である、ということ。昨今、歌詞カード

をみなければ何を言っているか分からない曲が巷に溢れている中、彼の歌唱が特別に明瞭に届くのも納得できる。印象的な声で歌詞がすつと入ってくるので、彼の世界に瞬間的に引き込まれる。彼の曲にこんなにも惹かれてしまうのは、彼の歌に対する真摯な姿勢、そして歌えることの喜び、聞いてくれる人への感謝の気持ちが声にあふれているからなのだ。本を読んだ後に改めて歌を聴くと、腑に落ちた。

今回のCD収録曲はいずれも優しく語り掛けるような歌唱。少し気がふさいでいる方や、悩んでいる方に向けてのエールにもなってくれる。前向きになる一助としてもオススメです。

今回のCD収録曲はいずれも優しく語り掛けるような歌唱。少し気がふさいでいる方や、悩んでいる方に向けてのエールにもなってくれる。前向きになる一助としてもオススメです。

「聴こえる」

絵本

この絵本をおすすめできる日を待っていました。KIRINJI堀込高樹の『あの人が歌うのをきいたことがない』。

まず、このタイトルが好き。「歌が聞こえない」でも「歌声を聞いたことがない」でもなく「歌うのをきいたことがない」……。このちよとした言い回しの差に高樹節を感じずにはいられません。「あの人」は歌わないのか、歌えないのか、はたまた、歌っているのに自分には聞こえていないだけなのか。これだけで長時間語りたくなってしまうほど、想像が膨らみます。

福田利之氏のイラストも暖かく、どこかで覚えが……。と思っているとスピッツの『さざなみCD』などのアートワークを手掛けた方だと知って納得。こちらも大好きです。

おまけで、出版社名は「888ブックス」と書いて「ハチミツブックス」と読みます。これも素敵！



堀込高樹

ありそうでなかった

若返りマンガ

第一話一ページ目の老夫婦が次ページでいきなり二十代くらいの姿に若返るといふ唐突さに思わず笑ってしまった。『じいさんばあさん若返る』はツイッター発の話題作で、半世紀近く連れ添った老夫婦がある日、イケメンなじいさまと美人のばあさまに若返るといふ一風変わった夫婦コメディである。

姿が変わっても暮らしぶりはあまり変わらず、話し方も老夫婦時代のままなので見た目とのギャップは凄まじい。いつも通りにゲートボールに参加する話が面白く、周囲の老人達との関係性が描かれるのも見どころだ。

各話に老夫婦時代の描写が差し込まれるが、体力の衰えや病気に苦しんでいたことも少しずつ描かれハツとさせられる。それでも一緒に老いてきたこの夫婦には安心感があり、若返った姿を程よく満喫している様子は微笑ましく、ほのぼのと楽しめる作品だ。



新桃限

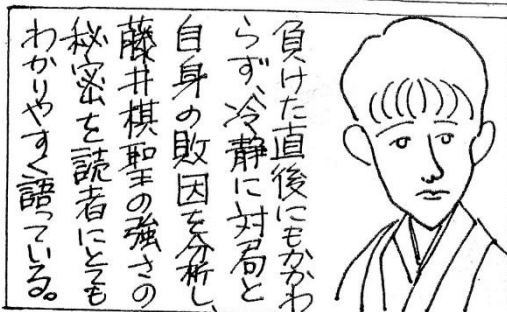


24

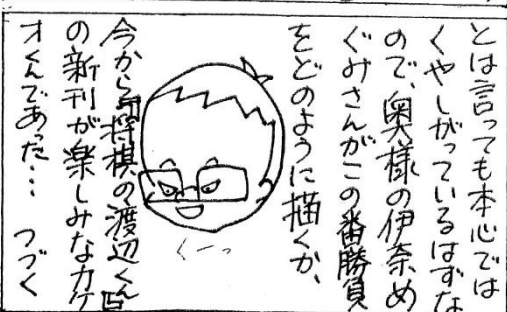
藤井聡太七段に棋聖を奪取された渡辺明二冠のインタビューが文藝春秋9月号に掲載されている。



※敬称は雑誌掲載時のもの



面白いのには強さはわかってても対策が現状ではないので負けはせよという結果だったと振り返っていることで、勝敗は「実力」で決まると常々おっしゃっている渡辺二冠という言葉だ。



今から将棋の渡辺二冠の新刊が楽しみなカネオさんであつた、つづく

【書誌情報】

『将棋の渡辺くん 一〜四巻』(伊奈めぐみ/講談社ワイドKC) 各八〇〇円、五巻:九月九日発売予定

※価格は全て本体価格です。